



平成31年度 木質バイオマス循環自立創生事業 本事業の4ヶ年まとめ（これまでの経緯と成果・課題）

資料 3

● 本事業の目的と概要

- ✓ 本事業は、朝日村の豊かな森林資源を多段階的に活用する仕組みを構築し、林業振興や地域循環型エネルギーの創出、交流事業の活性化等により地域の特性を活かした雇用の創出を目的としたものである
- ✓ 平成27年度に策定された「信州あさひカラムツまるごとミュージアム構想」を起点とし、平成28年度より5ヶ年計画で取り組みを進めてきた
- ✓ これまでの検討経緯と成果を踏まえ、今年度をもって本事業を終了

● 検討の経緯（実施概要と各次年度の取り組み方針）

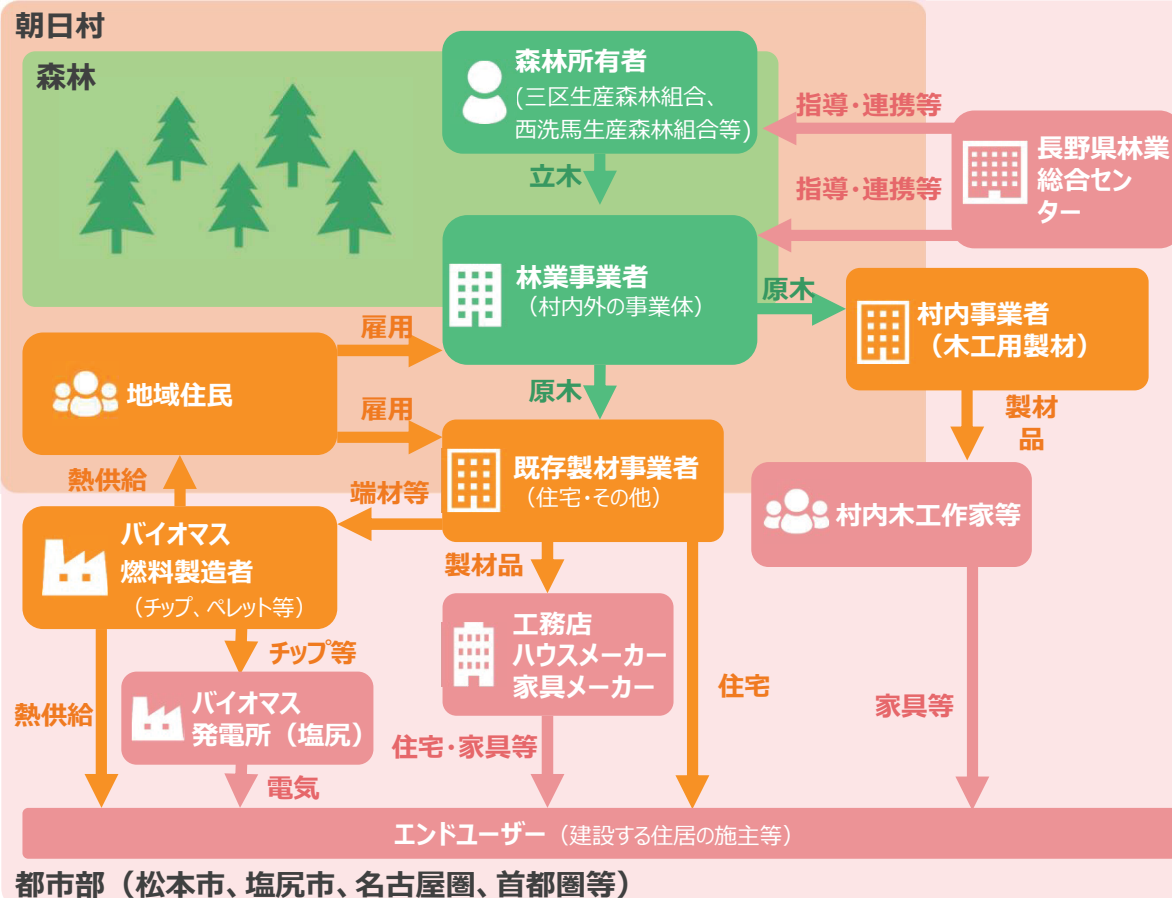
（平成27年度）
信州あさひカラムツ
まるごとミュージアム
構想策定
・カラムツの大規模製材と
ブランド化
・六次産業化の可能性

平成28年度
カラムツまるごとミュージアム
方向性検討
・事業規模の適正化
・朝日カラムツのブランド化検討
・5ヶ年の実施計画を策定
↓
コンパクトながら
も次世代につながる製材・加工

平成29年度
・マーケット調査
・事業参加可能性調査
・森林情報GISシステム構築
↓
・短期・中長期の2本柱でカラムツ
利用の具体化を進める
・資源状況の把握やゾーニング
が共通課題

平成30年度
・森林利用計画策定：
ゾーニング勉強会開催、案の提示
・短期プロジェクト：
木工家具利用に向けた調査検討
・中長期プロジェクト：
住宅・農業利用に向けた検討
↓
実現に向けて次年度はトライアル実施

● 事業全体のイメージ（当初想定した仕組み）

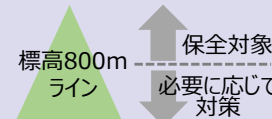


● 本事業の成果

- 1 朝日村産カラムツの可能性を確認
✓ これまでの取り組みの問題点を明確化
✓ ニーズの把握（品質の重要性）
✓ 適地・優良林分の仕分けと伐期延伸
による高付加価値化の可能性有
- 2 マツ枯れ対策方針の整理
✓ 喫緊の課題への対応
✓ 対策方針検討案を提示

● 今後の取り組み

- (1) 家具用材利用に向けた準備
✓ 高品質カラムツ育成（60→100年生）
✓ 家具用カラムツ材を用いた継続的な取り組み
（製材・乾燥、商品開発、情報発信）
- (2) 家具用材以外の需要確保
- (3) バイオマス利用
- (4) 計画的な森林整備に向けた
継続的な取り組み
✓ GISシステムを用いた情報蓄積・更新・活用
✓ ゾーニング手法を用いた森林整備計画検討
✓ 村内の林業従事者の育成
✓ 森林情報センター（仮称）の設立
- (5) マツ枯れ対策の具体的な取り組み
✓ 人員手配
✓ 予算確保
✓ 適切なタイミング
での実行



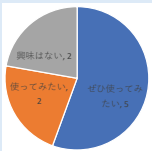
平成31年度実施概要

1 森林利用計画策定

- ✓ ゾーニングに関して西洗馬生産森林組合や林業事業体と協議・情報交換
- ✓ マツ枯れ対策について塩尻市や林業センターとの情報交換、最新情報をもとに対策方法を整理

2 短期プロジェクト

- ✓ 簡易製材トライアルに向けた準備実施
- ✓ 家具用製材に関する調査を実施し、高齢級材の品質・家具用の製材・乾燥方法の重要性を確認
- ✓ 村内木工作家との意見交換を行い、家具用カラムツ材への関心は高いことが判明



3 中長期プロジェクト

- ✓ 村有林の現地調査実施
- ✓ 村内にも高品質材となる可能性のある材が存在することを確認



朝日村 木質バイオマス循環自立創生事業

令和2年度 当事業について

森林資源の多段階的活用の仕組み作りにむけて、林業振興や地域循環型エネルギーの創出、交流事業の創出等、地域特性を活かした検討、協議を重ね、PDCAサイクルによる、改善、見直しを重ねてきたが、朝日村山林を活かした多段階的事業には、当事業の期間である5ヵ年では、山林の状況、地域の理解、地域の人材的土壌など、仕組み作りが結果に達しないと判断をし、令和元年度事業をもって、当事業の終了とする。

検討経過(概要)

当初、樹齢60年を迎えた朝日村のカラマツ林の活用を念頭に大規模製材所の設立、運用を検討とし、工務店等へのDM(直接販売)の形を想定していたが、市場調査の結果、木造住宅への関心の高さに反し、国産材への注目度は低く、朝日村山林の急斜面と搬出の難しさ等の問題点から、小規模高品質製材へと改善を図った。

しかし、主体を占めるカラマツ材ではプレミアムカラマツや天然カラマツと呼ばれる高品質材には樹齢、直径等が足らず、また、昨今市場評価を受けている直径15cmから25cm程度の時期はすでに過ぎている事から、事業構築が難航した。

引き続き、さらなる付加価値をめざし、推進を図るものとしたが、5カ年内での事業着地は実施不可能と判断をした。

KPIについて

10カ年に及ぶ計画により平成30年5月に朝日村役場庁舎が完成し、先進技術である接着重ね梁による木造公共建造物として完成。使用材は村内カラマツ林より出材と、住民寄付による高樹齢材を使用し、村産材の活用を大きく推進する事ができた。

今後について

今後、20年の間に搬出方法や路網、高齢材の流通方法、林野を直接活用した特用林産、観光事業、小中学生を対象とした次世代への普及啓発活動、関連団体の支援等を継続する事で80年、100年以上の樹齢を迎えたカラマツやその他林産物の産業化を模索してゆく。